

「ユダヤ人を救った動物園」を訪ね関係者と懇談

旅行代金 2018年12月26日 発 299,000 円

2019年3月24日 発 299,000

一人部屋追加料金 35,000 円

定員 20名(最少実施人員 10名)添乗員同行

申込み締切：出発の1か月前

日次	月日	曜	都 市	現地時刻	交通機関	摘 要	〈宿泊地〉	食事
①	12月26日 3月24日	水 日	東 京 発 ヨーロッパ内都市経由 ワルシャワ着	夕刻	航空便	集合：成田または羽田午前7時半～12時半頃(予定) 空路、ヨーロッパ内で乗り換え、ポーランドの首都ワルシャワへ  〈ワルシャワ泊〉		B-X L-機 D-X
②	12月27日 3月25日	木 月	ワルシャワ	午前  午後	専用車	着後、ワルシャワ市内見学 1944年に起きた占領中のナチスに対する武装蜂起の歴史を今に伝える●ワルシャワ蜂起博物館、大戦中の爆撃で破壊された街並みを”ひび1つまで”市民が復元した◎旧市街(世界遺産)、第二次世界大戦時に市民がドイツ軍に対して一斉蜂起した◎ワルシャワ蜂起記念碑を見学 ●「ワルシャワ動物園」内のヴィラ・ザピンスキを訪問し、ユダヤ人を救った動物園の博物館見学と関係者のお話  〈ワルシャワ泊〉		B-機 L-RL D-RL
③	12月28日 3月26日	金 火	ワルシャワ発 クラクフ着	午前 午後  夜	列車 徒歩	列車で田園風景を通りながらヤギューオ朝の黄金期に栄えた古都クラクフへ 第2次世界大戦の戦災をまぬがれ、中世そのままの街の趣を残すクラクフ旧市街(世界遺産)見学 石畳と石造りの建物が残る◎旧市街広場、歴代のポーランド国王の戴冠式が行われた◎ヴァベル城(中庭まで)、ステンドグラスが美しい●聖マリア教会(入場)、コペルニクスが学んだ◎ヤギューオ大学(中庭まで) オブショナルツアー：シヨパンピアノコンサートへご案内します(別途料金：3,000円)  〈クラクフ泊〉		B-H L-X D-X
④	12月29日 3月27日	土 水	クラクフ発 オシフィエンチム着  オシフィエンチム発 クラクフ着	午前  午後 夜	専用車	アウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所を訪れ、ナチス・ドイツによって収容されたたくさんの収容者の写真や遺品が展示してあるアウシュビッツ強制収容所跡と、当時を想起させるバラック小屋や慰霊碑が並ぶビルケナウ強制収容所跡を見学  「強制収容所のバイオリニスト」の編者と懇談  夜はユダヤ料理と音楽を楽しめるレストランへご案内  〈クラクフ泊〉		B-H L-RL D-RL
⑤	12月30日 3月28日	日 木	クラクフ ヨーロッパ内都市経由	午前	航空便	空路、ヨーロッパ内経由で帰国の途へ  〈機中泊〉		B-H L-X D-機
⑥	12月31日 3月29日	月 金	東 京 着			到着後、解散(成田または羽田へ 9時～16時頃を予定)		B-機 L-X D-X
B=朝食付、L=昼食付、D=夕食付、機=機内食 H=ホテルで RL=市内レストランで 機=機内食 OP=オブショナル・ツアー(希望者参加の小旅行、別途料金) サ=サンドイッチ 弁=弁当 ●=入場して見学、◎=下車して見学、○=車窓から見学								

## ツアーの特色

- ◇アウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所をガイドの案内でしっかり見学
- ◇「強制収容所のバイオリニスト」編者と交流します
- ◇ユダヤ音楽を楽しめるお食事や、オプションでショパン・ピアノコンサートにご案内

## 利用航空会社

ポーランド航空、フィンランド航空、ルフトハンザ航空、KLMオランダ航空、スカンジナビア航空、スイスエアライン など

## 利用ホテル

都市名	ホテル名(★クラス)
ワルシャワ	メトロポリ、カンパニール、ノボテル、アストリア、MDM ★★★
クラクフ	ホテル ポロニア、アンデルス、マテイコ、ホリデイイン ★★★ または同等クラスのホテル

## 旅行代金に含まれるもの

国際航空料金（エコノミークラス）  
 旅程表に明示したバス・列車・船等の料金・宿泊料金・食事料金  
 航空機による手荷物運搬料金  
 旅程表に明示した見学地のガイド料、入場料、チップ  
 添乗員同行費用

## 旅行代金に含まれないもの

超過手荷物料金  
 クリーニング代、電報・電話代、心づけ、追加飲食等の個人的性質の諸費用  
 空港施設使用料、保安料 成田空港 2,610 円 羽田空港 2,570円  
 燃油付加運賃 37,600 円 (2018年7月現在)  
 お一人部屋追加料金 35,000 円  
 国内における集合・解散地までの交通費・宿泊費  
 空港税等 5,450 円 (2018年7月現在)  
 渡航手続費用：旅券印紙代  
 傷害、疾病等に関する医療費、任意の旅行傷害保険料



▲アウシュビッツ強制収容所跡の  
「働けば自由になる」とかかれた門



▲ビルケナウ第2収容所跡  
この線路を人々は貨物列車にのせられて運ばれてきていました



▲ワルシャワ蜂起後、ナチスにより徹底的に破壊された旧市街。戦後、市民の手によりひび1つまで忠実に再現された美しい街並みです



▲『ポーランドの古都』とよばれるクラクフの旧市街の中心、市場広場